

心房細動を初発症状とした後期高齢バセドウ病の1例

— 高齢者バセドウ病の臨床的特徴について —

野 津 和 巳

キーワード：高齢者バセドウ病，心房細動，胸部症状

要 旨

バセドウ病では、動悸、息切れ、甲状腺腫大、眼球突出などを主訴とした若年女性症例の頻度が高い。一般に高齢バセドウ病例では心房細動など心臓疾患の合併症が多い。今回75歳であらたに発症したバセドウ病例を経験した。主訴は胸部不快感。心房細動に甲状腺中毒症を伴い、TSH 受容体抗体陽性でバセドウ病と診断した。抗甲状腺剤と β 遮断剤、抗凝固剤で加療し、心房細動は洞調律に服した。以前に著者が経験した高齢者新規バセドウ病症例の特徴についてまとめて報告した。以前より指摘されていることではあるが、高齢者において、新たに心房細動などの心疾患を認めた場合には、甲状腺機能検査が必須である。

はじめに

心房細動をみたら、甲状腺を疑えという言葉がある。これまで心疾患に甲状腺機能障害をとまなう症例が数多く報告され、日常診療でも比較的高頻度に経験する。甲状腺中毒症の5-15%に心房細動の合併を認めるとする報告がある¹⁾。甲状腺ホルモン値の上昇は、心臓に影響を及ぼし、動悸・息切れ・胸部不快感などの症状をきたすことはよく知られている。通常、バセドウ病は若年女性の疾患としてとらえられているが、社会の高齢

化にともない、最近高齢者の新規バセドウ病症例を時に経験するようになった。今回、後期高齢の新規バセドウ病例を経験したので、これまでの自験例をふまえて考察する。

症 例

症例は75歳、女性。主訴は動悸、胸部不快感である。家族歴として、母親と娘に甲状腺疾患がある。現病歴は、脂質異常症、耐糖能障害で当クリニックを10年以上前から受診中であった。受診前日より胸部不快感、動悸、不整脈あり。近医にて甲状腺中毒症にとまなう心房細動を指摘され、当クリニックをあらためて受診された。心電図では、心拍数126回/分、P波を認めない頻脈性不整脈で

Kazumi NOTSU

大学前のつ内科クリニック

連絡先：〒690-0825 松江市学園2丁目27-17

大学前のつ内科クリニック